

令和元年度 九州ブロック 事業報告

1. 活動テーマ

みる・つなぐ・うごかす ～保健師の原点から住民とともに創る未来～

2. 目的

全国保健師長会の活動を共有するとともに、専門性の高い公衆衛生看護活動の強化のため、管理期の保健師が、地域に責任を持った活動を行うことができる保健師の人材育成についてより力をつけ、各支部で自主的な活動を推進する。

3. 実施状況

回	開催日	場 所	内 容
1	平成 30 年 12 月 6 日 (木) 18:45～20:30	中央区保健福祉セン ター (福岡市)	【第 1 回 準備委員会】(出席 10 名) ・開催スケジュール、役割分担
2	令和元年 5 月 15 日 (木) 19:30～12:30	福岡市役所	【第 2 回 準備委員会】(出席 3 名) ・全国保健師長会理事会報告 ・ブロック活動計画・研修企画
3	6 月 3 日 (月) 18:45～20:00	福岡市研究室	【第 3 回 準備委員会】(出席 11 名) ・ブロック活動計画・研修内容決定 ・支部長会、ブロック研修会運営準備
4	8 月 19 日 (月) 18:45～20:00	中央区保健福祉セン ター (福岡市)	【第 4 回 準備委員会】(出席 11 名) ・支部長会 議事内容確認、運営準備 ・ブロック研修会運営準備
5	8 月 31 日 (土) 10:30～12:00	福岡市健康づくり サポートセンター 『あいれふ』	【九州ブロック理事・支部長会議】(出席 15 名) 1.各支部活動の情報交換 ・人材育成・統括保健師配置の現状と課題 ・会員拡大の工夫について ・災害時の保健活動マニュアルの推進 2.意見交換 ・現任教育における保健師長会の役割 ・退職、再任用保健師の活動支援等 ・健康関連データの分析、活用、その他
6	8 月 31 日 (土) 13:00～17:10	福岡市健康づくり サポートセンター 『あいれふ』	【九州ブロック研修会】(出席 115 名) 1.開会あいさつ 2.全国保健師長会活動報告 全国保健師長会常任理事 馬場順子 氏 (福岡県田川保健福祉事務所健康増進課長) 3.平成 30 年度地域保健総合推進事業研究報告 「災害時の保健活動の推進 ～マニュアル改定に向けて～」 研究協力者：鹿児島市中央保健センター所長 田中みゆき 氏 4.講演・ワーク 「地域に責任を持つ保健師活動を続けるために」 コミュニケーショントレーニングネットワーク (CTN) 統括責任者エグゼクティブコーチ 岸 英光 氏

4. 結果・課題

- ・理事・支部長会議では、各支部の会員数・構成や運営上の工夫、統括保健師の配置、人材育成健康データの分析・活用状況など地域特性に応じた各支部の取り組み状況にかかる現状と課題等、情報交換できた。市町村の会員拡大は各県支部の課題となっており、役付以外の参加を試みている支部もあった。現任教育における保健師長会の役割、退職・再任用保健師の活動支援等について意見交換し各支部の状況を知ると共に、これらに関する保健師長会の役割について認識しあった。これまで1支部が担っていた推薦委員を各支部輪番制で担当することとした。
- ・研修会は125名の申込みがあり、豪雨災害の影響で欠席もあり当日は115名の参加だった。

《全国保健師長会活動報告》

「日常活動から把握した課題や現場の悩みをどう政策関与に反映していくか」「若い世代の人材育成の進め方」等を重要視し活動を進めている等の報告があった。受講者からは「会の歴史、活動、方向性がよくわかった」等の意見が多く聞かれた。

《研究報告》

- ・災害時、市町村保健師の半数が行政職員として「救護所運営」の役割が割り当てられており、本来担うべき保健師の役割を明確にし、庁内で理解してもらうことが必要であり、今秋完成予定の「災害時の保健活動マニュアル」を参考に自組織での活動に活用してほしいとの報告があった。
- ・受講者からは「ポイントがよくわかった」「新マニュアルをぜひ活用したい」等の声が聞かれた。

《講演&ワーク・岸氏》

- ・子どもや後輩・部下など、人を育てようとする時には、「人間が潜在的に持っているパラダイム（正常性バイアス等も含めた価値観の枠組み）がある」ことを認識した上で、その価値観の枠に囚われずに現実的に対応し、人の能力を最大限に引き出すコミュニケーションスキルを身に付けると、育てたい相手の様々な能力や資質、感性や感覚、態度や姿勢を引き出す育成が可能となる。
- ・「褒める」ことから派生する「快」の報酬ではなく、認められること、承認される事から生じる「甲斐」の観点も、人材育成にも重要であるとの本質を学ぶことができた。
- ・人間なら誰もが持っている脳の仕組みである「バイタリティのサイクル」の順番に基づいた相手の自発性をはじめ様々な能力や資質を引き出すメッセージである『インテンショナルメッセージ』を活用できるようになると、人材育成はもちろんのこと、関係組織との連携や施策説明のプレゼンテーションにも応用可能となる。
- ・「目からうろこだった」「面白く刺激的」「視点の異なる内容でよかった」「具体的で参考になった」「学んだ手法を取り入れたい」等様々な声が聞かれ、受講生の満足度も高かった。

5. 支部活動の特徴

- ・各支部が地理的に離れており定期的な会議開催はできないため、年1回の研修会と同時に支部長会議を開催している。通常は、各支部長名簿を活用し電話やメールにて情報交換を行っている。
- ・研修会においては、全国保健師長会の活動を共有するとともに、専門性の高い公衆衛生看護活動を強化するため、管理期の保健師が「地域に責任を持った活動ができる保健師の育成」に取り組むためのスキルを、実践的に学ぶ機会となるよう努めている。

6. 委員・支部長

○理事	河野みどり	福岡市中央区保健福祉センター地域保健福祉課
理事	清田啓子	北九州市保健福祉局先進的介護システム推進室
福岡県	岡島祐子	福岡県精神保健福祉センター相談指導課
福岡市	大原三枝	福岡市西区保健福祉センター子育て支援課
北九州市	丹智美	北九州市保健福祉局地域福祉推進課
佐賀県	横尾美穂子	佐賀県杵藤保健福祉事務所
長崎県	佐々木多佳子	長崎県福祉保健部福祉保健課
熊本県	永野智子	熊本市健康福祉局保健衛生部健康づくり推進課

大分県	後 藤 芳 子	大分県福祉保健部健康づくり課
宮崎県	杉 尾 重 子	宮崎県高鍋保健所健康づくり課
鹿児島県	五 田 貴 子	北薩地域振興局保健福祉環境部健康企画課 (川薩保健所)
沖縄県	国 吉 悦 子	沖縄県中部保健所